

代々木競技場第一体育館

初の音楽公演おこなう

第二業務部業務課

はじめに

このたび、代々木競技場第一体育館（オリンピックプール）で初めて本格的な音楽イベントが行われた。

今年の秋、そのほか展示会、古典芸能、式典などの目新しい行事が相次いで開催された。

第一体育館が今日このように多目的利用されてきたところには、あの石油危機以来の事情がある。

所謂「省エネルギー対策」から生じた当第一体育館の運営形態の変化に対応するため、あくまでスポーツ大会の開催を最優先としながら、長期化するフロア期間の中で空いた日程については、有効利用を図っていききたいとのことから、近年、音楽イベントを含めたところの文化的行事の開催となっている次第である。

音楽的環境

代々木競技場の立地する周辺は、表参道、竹下通り、歩行者天国、公園通りなどが配置されていて、今日その沿道からはファッション感覚、リズム感性に溢れた人々が往来している新しい街が生まれてきており、今後更に発展を続けていく様相にある。また、代々木競技

場界限にはテイクオフセブン、屋根裏、エッグマン、パルコ（スペースパパートⅢ、西武劇場）、ジャンジャンなどのライブハウスやコンサートホールが多数あり、とりわけ公園通りが別名「コンサート通り」という名称で親しまれつつあるほどだ。そして音楽会場として有名な渋谷公会堂、NHKホールが隣接して建ち並んでいる。

このように代々木競技場は、スポーツは勿論のこと、音楽的にも大変恵まれている環境にあると思われる。

秋の音楽公演

当第一体育館における初の音楽公演として、九月三十日「チャゲ&飛鳥」コンサートが幕を切って落とされた。音と光が織りなす華麗な舞台上に、館内を埋め尽くしたファンは酔いしれる状態だった。

続いて十月十五、十六日には、ボズ・スギヤグス、ジョー・ウォルシュ、マイケル・マクドナルド共演で、ロック調コンサート「サントリー・ールド・ホットライブ'83」公演があった。引き続き「JATP'83」公演が十七、十八日に行われた。これには懐しのエラ・フィッツジェラルド、オスカー・ピーターソンらが出演し、多くの

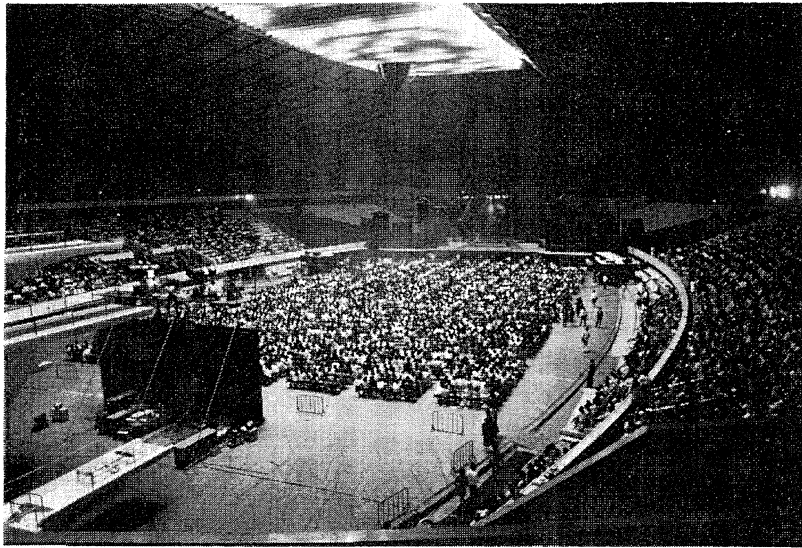
ジャズファンを堪能させていた。さらに十一月十三日にはレコード大賞歌手「寺尾聰コンサート」が盛況のうちに行われた。

このたびの音楽公演を通して、特に印象深く思ったことは、いずれの公演でも主催者、出演者、観客が共に、国立競技場を舞台とすることが出来た喜びを率直に語っていたことであった。これに対して施設側としては、できる限りの協力を惜しまなかったつもりである。

この秋おこなった文化的行事入場者一覧表 第1体育館

行 事 名	行事内容	行事日数	有料	入場者数
チャゲ&飛鳥	音楽会	1		9,691
サントリー・ールド・ホットライブ'83	〃	2		24,106
JATP'83	〃	2		6,068
寺尾聰コンサート	〃	1		3,217
日本臨床眼科学会学術展示会	展示会	2	★	8,000
エレクトロニクス薪能	古典芸能	1	★	5,000
三基商事創業20周年記念東日本大会	式典	1	★	10,000

注) ★印は入場無料



上・チャゲ&飛鳥公演（9月30日）
下・JATP '83公演（10月17・18日）

音響及び照明

当場第一体育館の施設そのものの音響効果について、昨年十二月専門業者（株・東京音響通信研究所）の協力を得て音響テストが実施された。その結果、心配された残響性現象も殆んど起こらず、現在ロックコンサート会場として太鼓判の日本武道館とほぼ同等の合格点が付けられた。そして実際に

一連の音楽公演を終え、関係者の間では好評だった。中でも「寺院聰コンサート」の音響は評判が良く、所謂、その施設に合ったスピーカーの積み上げ、角度が研究されており、そのため効果的な音響が生まれてきたものと思われる。ところで、今日、音楽イベントの傾向として、音響、照明が大掛りとなってきた。勿論、効果的な舞台を演出するためには、

それらも止むを得ないところだろうと思う。さて、当第一体育館がその設立からして、前述したような音楽イベントに十分対応できる設備、装置はもととないわけである。従って、このたび行われた音楽イベントでは、音響、照明に関するものは一切主催者側の持ち込みで行われてきた。将来仮に、大阪城ホールのように音響、照明設備

などを自前で所有するかどうかについては、先に述べた事情や格納場所などを含めて大変難しい問題が残されており、いざれにしても今後の課題だろうと思われる。

会場内の管理

会場内の事故防止対策について少々述べてみたいと思う。さて、音楽イベントが観客の入退場時を除き、それ以外は会場内の照明を殆んど使用しないため、終日全灯照明のスポーツ大会に比較し、遙かに省エネ型行事だといえるかと思う。しかし反面、公演中は常に暗い状態に置かれていただけに危険も予想される。

そこで、初の音楽イベント開催にあたり、当第一体育館としては会場内の秩序維持及び事故防止対策として、次の点を留意して行ってきた。①座席は全席指定とした。自由席を設けないことにより、席の争奪や野放し状態からの混乱を未然に防ぐ。②場内放送で、万一会場に混乱が生じた場合は「即コンサート中止」する旨を流し、事前に注意を促した。③公演中、二、三階フェンス際の警備陣を増強した。④場内は禁煙とした。⑤アリーナ部分の観客に対し臨時出口（東ランプ）を設け、非常時を想定

して退場所要時間の短縮化を図った。

入場者

このたびの音楽イベント入場者については、別表に掲げる通りである。その中で特筆されることは、「サントリーオーールド・ホットライプ'83」公演に出演した、ボズ・スギヤングスの人気の凄さだ。公演二日目には有料入場者一万二千三百名を数えた。主催者の話では「我が国の室内有料入場者の記録をあっさり塗り替えるものだった」とのことである。

おわりに

施設側にとっては初体験の音楽イベントであり、通常のスポーツ大会と大分勝手が違って戸惑うこともあったが、いざれの音楽会も成功裡に終わることが出来た。この経験を今後の第一体育館運営に役立て、可能な限り施設の効率的利用を図り、スポーツ界をはじめとする各界の期待に一層応えていきたいと思う次第である。

（赤谷達夫）